



一般社団法人日本クリエイティブ・アーツセラピー学会主催

JCATA 第5回学術大会

コロナ禍における支援者のセルフケア ～あいまいな喪失を通じて～

長引く新型コロナウイルスの感染拡大で、今もなお世界中の人々が先の見えない不安の中にいます。はっきりしないまま解決することもなく、終結することもできない“あいまいな喪失”に、誰もが直面していると言えるでしょう。あいまいな喪失理論を提唱したPauline Boss博士はガイドラインの中で想像力や創造性を高める活動を通して希望を見出していくことが対処法になると述べています。

1年半近く続く予測不可能なコロナ禍で、生活の変化と不安をクライアントと同様にセラピストも経験しながら、支援の提供が求められてきました。本大会では、一度立ち止まってクリエイティブ・アーツセラピーを実践する者同士が自己を見つめ直す機会にできればと思います。

レクチャーやワークショップの体験を通して、コロナ禍の影響や自身のセルフケアについて振り返り、想像力と創造性の刺激を受け、原動力が補充される1日になることを願っています。

【日時】 2021年10月24日（日） 9:00～16:15 JST

【開催形式】 オンライン（Zoom）

【参加費】 会員／4,000円 非会員／6,000円

【主催】 日本クリエイティブ・アーツセラピー学会 <http://www.jcata.org/>

【問い合わせ】 第5回大会運営委員会 event@jcata.org

【お申込み方法】

申込受付期間： 9月20日（月）～10月23日（土）

参加ご希望の方は、下記の[申し込みフォーム](#)にご記入のうえ、送信してください。



- * 申し込まれた方に、折り返し参加費の振り込み案内をお送りいたします。参加費の払い込みをもって申込受付が完了します。受付期間を過ぎますとご参加できません。
- * 受付完了の方にのみ、事前にZoom大会へのご招待情報をお送りいたします。
- * 次ページにZoom開催による守秘義務や注意事項について記してございます。申込時にご確認、ご同意をお願いいたします。
- * 上記期間に関わらず、大会に関するご質問は運営委員会へメールでお問い合わせください。

【オンライン大会参加への注意事項及びご同意へのお願い】

➤ Zoomの使用について

- ・ 本大会はZoomを使用します。参加するためには、事前にご自身のパソコンやタブレットにZoomの最新アプリをダウンロードしておく必要があります。Zoomの接続ができないと大会に参加できませんので、必ずご自身で事前準備をお願いいたします。
- ・ 申し込み完了した方にZoomへの招待情報、参加手順、参加時の申し合わせの詳細をお送りします。
- ・ セキュリティ上の本人確認のため、必ず参加者ご本人から、参加申し込み手続きをお願いいたします。
- ・ Zoom情報を他者への転送を禁止いたします。
- ・ インターネット上のリスクを完全に回避することはできません。あらかじめご了承ください。

➤ 守秘義務遵守、注意事項について

- ・ 発表内容には症例や事例資料が含まれますので、守秘義務の遵守をお願いいたします。
- ・ 対面での学術大会同様、本オンライン大会で得た情報を関係者の同意無しに公表したり、SNSで拡散したりすることを禁止いたします。
- ・ 本大会中の全てにおいて、録音・録画・撮影などを用いてのデータ保存は禁止いたします。
- ・ 臨床家・研究者・教育者としての倫理に基づいて、発表者や他者のプライバシーへの配慮をお願いいたします。

➤ ご同意のお願い

- ・ web大会の安全な運営のために、上記につきましてご理解・ご協力をお願いいたします。申し込みフォームにご同意の欄がありますので、お申し込みの際にはチェックのうえ、ご同意をお願いいたします。

【大会スケジュール】

9:00-9:15 (15分)	Zoom入室 (受付) 開始
9:15-9:25 (10分)	オープニング、注意事項など
9:25-10:30 (65分)	講演① 「あいまいな喪失、コロナ、そしてこれから」 ジェシカ・ブラウン (カウンセラー)
10:30-10:40 (10分)	休憩
10:40-11:45 (65分)	講演② 「グリーン表現、そしてセルフケア」 アネット・ショア (アーツセラピスト)
11:45-13:00 (75分)	昼休み
13:00-14:15 (75分)	ワークショップ① 「セルフケア・イン・コネクション：対人援助職向けに」 神田・みゆき (ダンス・ムーブメントセラピスト)
14:15-14:25 (10分)	休憩
14:25-15:40 (75分)	ワークショップ② 「身体詩ベースアプライドドラマ『浦島』 ～世界に飛び込むタイミング、その手掴むの掴まないの?～」 オーハシ・ヨースケ (身体詩表現家)
15:40-15:45 (5分)	休憩
15:45-16:15 (30分)	クロージング 「今ここに。今ここから。」 山口・美佳 (表現アーツセラピスト)

【午前】

講演① 「あいまいな喪失、コロナ、そしてこれから」 9:25～

誰か、または、何かをなくしたり損なったりしたけれど、その喪失が永久的ではない時に感じる深い悲しみのことを曖昧な喪失と言います。この講演は、新型コロナのパンデミックや、それに伴う様々な閉鎖の影響を受けてきた支援者らと共に、激動の日々の中で経験してきた事からや喪失の体験と一緒に振り返るひと時にしたいと思います。曖昧な喪失について理解を深め、似た体験をした者同士が繋がり、これからも前に進み続けるために必要な希望やレジリエンスについて一緒に考えませんか？



ジェシカ・ブラウン

セントエドワーズ大学（米国テキサス州）カウンセリング修士修了。グリーフと喪失、そして児童/家族セラピーを専門とする。度重なる自然災害の個人体験があいまいな喪失そしてその支援について追及するきっかけとなる。2019年にワシントン州に移住し、児童カウンセリングセンターにて児童/家族セラピストとして活動。

講演② 「グリーフの表現、そしてセルフケア」 10:40～

この講演では、グリーフの表出と、セルフケアに対する個別化されたアプローチの探求というとらえどころのない道のりについて掘り下げます。

パンデミックを通して、私たちの多くは喪失や想定されていた日常が打ち碎かれる中、手探りで進みながら、圧倒的な混乱とグリーフに立ち向かってきました。明確なガイドラインも存在しない曖昧で予測不可能な危機を、クライアントと一緒に経験してきました。時には、打ちのめされそうな絶望感によって感じる力が抑え込まれてしまいそうになることも（個人的にも、プロとしても）。グリーフ理論が役立つこともあります。それだけでは不十分です。得体の知れない不安が存在する場合、セルフケアを語るのは簡単でも、行うのは難しいことです。

私たちはどのようにしてこの消耗と絶望の体験を乗り越えてきたのでしょうか。クライアントが状況に対処し心の痛みを見つめられるようにするために、私たちはどの程度揺るぎないサポートを提供することができたのでしょうか。圧倒されるほどのトラウマの渦中にいる時、喪失と絶望を表現する言葉を見つけるのは容易ではありません。解決や結論に到達するのは不可能でも、安らぎ・意義・回復を与えてくれる手段を見つける努力と葛藤は支援者にとって大切なプロセスです。



アネット・ショア

1985年より米国にて児童・青少年・成人・家族を対象に幅広い臨床現場でセラピストそしてスーパーバイザーとして活躍。20年以上大学院にてアートセラピーカウンセリング教授として次世代のアートセラピスト育成に従事。米国アートセラピー協会認定アートセラピスト（ATR-BC）/スーパーバイザー（ATCS）、そして学術雑誌の編集・査読委員。著書：子どものアートセラピー実践ガイドー発達理論と事例を通して読み解く（金剛出版）他

【午後】

ワークショップ① 「セルフケア・イン・コネクション：対人援助職向けに」 13:00～

他者を支援する道に進まれ、プライベートでも様々な役割を受け持つご自身にとって、活力と意義のある生活を営むのには、不可欠とも言えるセルフケア。ご自身にとってのセルフケアの意味、また、プロフェッショナル・プライベート両方の場面でセルフケアをどう実践していけるかを、ご一緒に探索できたらと思います。ご自身とのコネクションや周りにいる大切な方達、他者とのコネクションを育むという視点から、自律神経系に働きかけるクリエイティブなワークをご一緒に体験されてみませんか。



神田・みゆき

カリフォルニア州公認マリッジ&ファミリーセラピスト、米国ダンスセラピー協会公認ダンスムーブメントセラピスト。2003年にナローパ大学より身体心理学修士号を取得以降、ロサンゼルス郊外で活動。プライベートプラクティスにてインディビジュアル、カップルカウンセリングを提供他、セルフケア・ワークショップを地域の対人援助職向けに紹介。

ワークショップ② 「身体詩ベースアプライドドラマ『浦島』～世界に飛び込むタイミング、その手掴むの掴まないの?～」 14:25～

皆さん一緒に日本の民話「浦島太郎」の物語世界に入ってみましょう。明治政府が教科書に歪めて載せた物語ではなく、古事記万葉集時代の「浦島」原話のドラマ世界。カラダで受け止める時の流れ、クロノスとカイロスな時間、人生の岐路とタイミング、「竜宮城」や「しあわせ」観など、そこでコロナ禍の閉塞的な世界からちょっと離れた、自分を眺める新鮮な視点に出会えるかも・・・。



オーハシ・ヨースケ

身体詩表現家。NPO法人祈りの芸術TAICHI-KIKAKU 理事長。早大演劇科卒。第7回カイロ国際実験演劇祭で最優秀賞。世界24か国で身体詩公演活動。国際交流基金フェロースhipや文化庁で海外派遣。チェスター大学芸術教育センター（RECAP）の応用ドラマ客員研究員。大阪市大大学院都市経営科等でワークショップ指導。

クロージング 「今ここに。今ここから。」 15:45～

世界に点在する私たちが、一堂に会し共に学んだ一日を振り返る時間。今ここに、繋がり交わり融け合うことの意味を語り合い、今ここから、それぞれの未来へ持ち帰る“お土産”を分かち合ひましょう。



山口・美佳

レズリー大学大学院Expressive Therapies: Music Therapy & Mental Health Counseling修了。現在、九州・津屋崎を拠点に、暮らしに寄り添う表現アーツセラピストとして、地域の社会活動家・アーティスト・住民らと共に、表現アーツを用いたインクルーシブなコミュニティーの実現に向けて活動中。コロナ禍の世界へ、stillnessをテーマに映像と音を配信している。

http://www.instagram.com/arts_in_sound/

【JCATA第5回学術大会運営委員会】

奥山裕子（アンダンテプリモ）
倉石聡子（アップコンセプト）
斎藤佐智子（群馬病院）
辻ロビン（無所属）

【本学会について】

日本クリエイティブ・アーツセラピー学会（JCATA）では、クリエイティブ・アーツセラピーの普及と、CATによる臨床活動の知識や専門技術の向上及び研究、セラピスト同士のサポートやネットワークづくりなどを目指しています。年に一度の学術大会（秋）、研修会（春）、総会&交流会（6月）、年に二回（6月&12月）のニュースレター発行、メルマガ発行などが活動の中心です。

CATは、諸芸術を治療や支援に意図的に用いる諸芸術療法の総称です。アートセラピー、ダンス/ムーブメントセラピー、ドラマセラピー、ミュージックセラピー、表現アーツセラピーなどがあり、人が本来持つ創造性を生かすことで自己治癒力を高め、より豊かに、そしてより健やかに生きることを目指します。心身の不調やさまざまな障がいの回復、機能の維持や改善、ストレスの緩和や予防、リラクゼーションの促進、モチベーションや生活の質の向上、行動の変容、自己洞察の深化、その他、自尊心や自己肯定感、主体性や柔軟性、創造力や表現力の向上などのために用いられます。CATは誰もが持つ創造性を活かすことにより、性別・年齢・障がいを問わず、あらゆる対象者の自己成長や自己実現を目指し、医療・福祉・教育・心理・司法・産業の分野で幅広く柔軟に適用されます。

本学会の起源は2006年にさかのぼります。この年の10月7日～9日にかけて、国立オリンピック記念青少年総合センターにてクリエイティブ・アーツセラピー国際会議が開催されました。その後、スタッフ有志らにより、ネットワーク・オブ・クリエイティブ・アーツセラピー(N-CAT)が設立され、主催・共催するイベントを毎年開催してまいりました。そして10年の節目を迎えた2016年9月に、一般社団法人日本クリエイティブ・アーツセラピー学会設立の運びとなりました。

- ✓ クリエイティブ・アーツセラピーやその実践について学びたい
- ✓ クリエイティブ・アーツセラピーを用いたスーパービジョンや、ピアグループに参加したい
- ✓ 海外でのクリエイティブ・アーツセラピーの実践に興味がある
- ✓ 海外のクリエイティブ・アーツセラピーを学び、日本での活動に生かしたい
- ✓ 多職種における互いの専門性を尊重し、相互に協力し学びあいながら、それぞれの活動現場で諸芸術の力を活かす機会を増やしたい
- ✓ 対象者や現場に即した諸芸術の活用について学びたい
- ✓ 諸芸術を用いて活動している人たちとのネットワークを広げたい

このようなご希望やご期待に応えるべく、皆さまと共に研鑽を続けていきたいと願っています。新たに入会を希望される方は学会ホームページ（<http://www.jcata.org/>）から会員種別をご確認の上、申込書と必要書類を入会受付窓口(apply@jcata.org)までメールにてご送付ください。ご不明な点がございましたらお気軽にご相談ください。